



第5回京都学生祭典

今年も彼らは頑張りました！
大団円を、大人は見守る義務がある。

「〇〇の街」と表される京都。「学生」というのもそのひとつである。その学生たちが中心になって運営する祭も、もう5回目。今年も学生たちは額に汗して、協賛を得たり、協力をとりつけたりしている。我々大人としてはその頑張りを見守り、自由な動きを応援する必要がある。

5周年メモリアルの今年は「Kyoto Student Music Award」なんてのもある。まあオーディションライブなのだが、協力・株式会社GIZA studio、後援・α-station、FM802ってんだから大したものだ。メインコンテンツは「京炎 そでふ

れ！ 全国おどりコンテスト」。一体感とか感動とか涙とか、あるんだろうな。思い出になるんだろうな。大人も直視すれば充分楽しめそうである。

少し厳しいことを言えば「安パイ主義」が気になることか。「皆でできる催しで、安全なもの…」という発想（おそらく）から、もうひとつ思い切りを期待したいし、学生の新鮮な意見には極力フタはしたくない。何しろ「全く新しい祭」が謳い文句である。ソコントコ、後见人である大学コンソーシアム京都さん、よろしくです！

(竹中 聡/本誌)



■「大5回京都学生祭典」
■2007.10.6. (Sat) ~10.7. (Sun)
■京都駅ビル (10.6.)
■平安神宮・岡崎周辺 (10.7.)
■問い合わせ075-353-9432 (第5回京都学生祭典実行委員会)

~京女・真摯のactive life~ 月刊 芸妓自身!!

「京の芸妓、ニューヨークへ行く」の巻

連載二回目にして、京都脱出！ N.Y.から原稿をお届けです。しめ切りに逃げたのではなく、中村勘三郎さん率いる「平成中村座N.Y.公演」に合わせて少し早い夏休み。公演ticketを入手したんです！ いいでショ♡ 芸妓の嗜み…なんて、偉そうなもんじゃないんですけど、やっぱり伝統芸能は好きだし、特別なものは観たいんです。というわけで、「さぶらうえい」を乗り継ぎ「Lincoln Center」へ。

現地のアメリカ人の期待がすごく高い！ 「New York Times」で「アメリカで人気上位3位を争うコメディ俳優と同格だ！」と勘三郎さんが絶賛されたとか。現地の人はその記事を見て行く行かないを決めるそうです。

幕開けから黒子さんが英語のナレーションと身振り手振りの出演者紹介。今回の「HOKAIBOU」は、①勘三郎さんならではの

のお笑いセンス、②アメリカでも注目の日本のホラー要素、③途中で挟まれる舞踊の伝統芸能アピール、④ショウビジネスに欠かせぬフィナーレの華やかさ、を併せ持った秀作。おまけに⑤英語の台詞と全世界共通のエロティックネタ。会場が笑いで沸きました。

私も一人で拝見しながら大爆笑！ 何かが違うなあ〜と思ったのは「大向う（要所で「中村屋！」「大和屋！」と声をかける人）」がいなかったこと。別日に行った知り合いは「普段はしないけど今回は叫んで頑張った」ですって。Oh, I could not!

中村座さんにとっても楽しい興行だとは思いますが、ふたを開けてみないと判らないプレッシャーもあったと思います。伝統芸能への入り口を「笑い」という誰もが楽しめる方法で若い世代へ、そして世界へと届けて下さるお姿に感動致しました！

MAKOTO率いる京都発信エンターテインメントチームHP
<http://www.chimabel.com>

只今CD発売中 featuring MAKOTO
「M.O.N」 first mini Album “UNKNOWN/安穩”

